

みずほ保育園 令和7年度 自己評価（総論）

ABC欄に○をつけてください（ A：よくできている B:ほぼできている C:努力が必要）

評価内容		A	B	C
保育理念・目標・計画・評価	1 子ども一人ひとりの主体性を大切にされた保育をしている	5	11	0
	2 一人ひとりのありのままの姿を受け入れることができる	6	9	1
	3 『保育の目標』を達成するために『ねらい』があり、『ねらい』をより具体的ににしたものが保育の『内容』であることを理解している	6	9	1
	4 子どもの発達過程やその連続性を踏まえ、保育や生活の中で『ねらい』や『内容』が達成されるよう、必要な事項に配慮して保育を行わなければならないと理解している	6	8	1
	5 保育園の方針を理解して、保育計画を立て、実践しようと努めている	5	8	3
	6 保育の計画に基づいて保育をし、保育内容の評価及び改善に努め、質の向上を図るとともに、社会的責任を果たさなければならないことを理解している	7	6	3
	7 保育の目標とそれを具体化した各年齢のねらいと内容があり、一貫性のある計画が作成できる	2	10	4
	8 各年齢の発達段階を理解し、それぞれの年齢にあった指導計画であり個々の発達にも留意したものを作成している	5	8	3
	9 保育士は、自らの保育実践を振り返り評価し、専門性の向上や改善に努めなければならないことを理解している	6	9	1
	10 保育園は、保育内容等について自ら評価を行い、その結果を公表するように努めなければならないことを理解している	8	6	2

ABC欄に○をつけてください（ A：よくできている B:ほぼできている C:努力が必要）

評価内容		A	B	C
保 育 内 容	1 子どもの発達を促すための環境づくりを心掛けている	2	10	4
	2 玩具・遊具は、必要に応じて消毒したり、衛生面に配慮している	3	9	4
	3 年齢に応じた保育ができるような空間を作っている	4	7	5
	4 子どもが落ち着いて過ごせる保育室の雰囲気、おもちゃの工夫をしている	3	9	4
	5 保育室の整理整頓に努め、いつも気持ちよく過ごせるよう心掛けている	4	10	2
	6 特別な配慮が必要な子の対応を考えている	5	8	3
	7 子どもの日々の健康状態を把握し、保育している	9	6	1
	8 子どもの体調不良やけがなどの情報を職員間で共有している	8	7	1
	9 一人ひとりの子どもの思いを受け止めその思いをできるだけ実践できるよう努めている	4	10	2
	10 一人ひとりの子どもの課題を明確にし、見通しをもって関わっている	4	8	4
	11 一人ひとりの子どもの話を聞き、丁寧に関わっている	4	11	1
	12 遊びに入れない子や全体の様子に気を配っている	7	6	3
	13 子どもが意見や意思表示ができるような保育を行っている	5	8	3
	14 遊びを通して友達や保育士との関りが十分持てるよう配慮している	6	9	1
	15 身近な自然や社会と関われるような取り組みを行っている	5	7	4

保 護 者 対 応	1 保護者の意見や要望等の対応を行っている	4	9	3
	2 保護者に対して、子育て等、話しやすい雰囲気や態度で接している	6	8	2
	3 保護者に対して、丁寧な言葉遣いと気持ちの良い対応を心掛けている	8	6	2
	4 送迎時に子どもの姿を保護者に伝えている	5	9	2
	5 一人ひとりの保護者と必要に応じて個別に面談を行っている	5	5	6
	6 子どもはもとより、保護者・保育士など出会う人に自ら挨拶している	7	9	0

ABC欄に○をつけてください ( A:よくできている B:ほぼできている C:努力が必要)

		評価内容	A	B	C
安全 対策	1	保育中の体調への気配りやけが等への配慮をしている	7	7	2
	2	感染症の発生状況や注意事項等を知らせている	6	8	2
	3	遊具の安全点検を行い破損、不具合の個所は、必要に応じて対策を取っている	4	9	3
	4	子どもが危険な場所や遊びがわかり、安全に気を付けて行動するよう働きかけている	9	5	2
	5	火災・地震・不審者対策等危機管理に努めている	5	9	2

給 食	1	給食が楽しく食べられる工夫をしている	5	10	1
	2	園が実施している「アレルギー除去食の対応」の実態を知っている	8	4	4
	3	食育を通して食に対する興味を持てるよう努めている	6	7	3
	4	年齢に応じた食事がとれるよう配慮している	7	8	1
	5	衛生的な環境のもとで食事がとれるようにしている	7	8	1

地 域	1	地域との交流を図っているもしくは図れるよう努めている	2	7	7
	2	地域の子育て家庭への支援を行わなければならないと理解している	6	6	4

職 員 の 資 質 向 上	1	園の内外における研修などに積極的に取り組む意欲がある	9	5	2
	2	保育士の人間性が子どもに与える影響を自覚し、研修に励んでいる	7	8	1
	3	保育士という職種や園の信用をなくすような行為、発言をしていない	7	9	
	4	勤務時間中、子どもを保育している間は、そばで私的な話はしない	4	10	2
	5	『皆がやっているから』『以前からの慣例だから』という思いにとらわれないで保育している	4	9	3

ABC欄に○をつけてください（ A：よくできている B:ほぼできている C:努力が必要）

保 育 実 践	1	自分の理想の実践と日々の実践について語ることができる	2	8	6
	2	必要な記録を取り、事業、指導、支援、食育、保健等の計画に反映している	2	9	5
	3	短期的なビジョンを持ち、月案等の具体的な計画へ反映し、活用している	2	8	6
	4	子どもの活動を見守ったり言葉に耳を傾けたり、尋ねたりなどしながら「子どものやりたい」を収集している	4	10	2
	5	「子どものやりたい」を実現するために、収集した内容を計画・準備し、素話や遊びの導入、環境構成、予備環境などの具体的な活動場面へつなげている	2	8	6
	6	「子どものやりたい」に加え教育・保育のねらいの実現や内容の充実に向けて5領域や10の姿の観点をさりげなく盛り込み、子どもの気づきや発見の手がかりとして投入するなど、遊びが展開・発展する手立てを継続的に実践している	1	8	7

○「保育理念・目標・計画・評価」「安全対策」「地域連携」の項目は昨年度同様に「B:ほぼ出来ている」という結果となりました。よりこの傾向が良きものになるよう職員の統一した見解を深めるため、園内研修、施設外研修を通して、『職員の保育スキル、保育に対する意識』の向上を図りたいと思います。

○昨年度の自己評価に比べて「保育実践」「保育内容」「遊びに関する事項」の、項目は「C:努力が必要」と評価する方が大勢おられました。話を聞かせていただくと、「今年度、勝山先生の訪問指導を受け、自らの保育の在り方を深く考えさせられ、現状に満足できない」と答える方が多くいました。

また「以前の慣習、皆がやっているから」と考えるのではなく、現状を見据えた保育（子どもや保護者と向き合う姿）が大切であると応えてくれる職員もいました。

◎結果だけを見ると「C：努力が必要」という項目が少ないのが理想に近いと判断されがちですが、逆に「保育の伸びしろが大きい」と考えられます。次年度に実施予定の「自己評価」ではこれからの「C:努力が必要」の評価が「B:ほぼ出来ている」に移行されると確信しています。